

# 中長期的な視点に 基づいて企業価値向上に 努めていきます。



執行役員 財務経理本部長  
丸山 好道

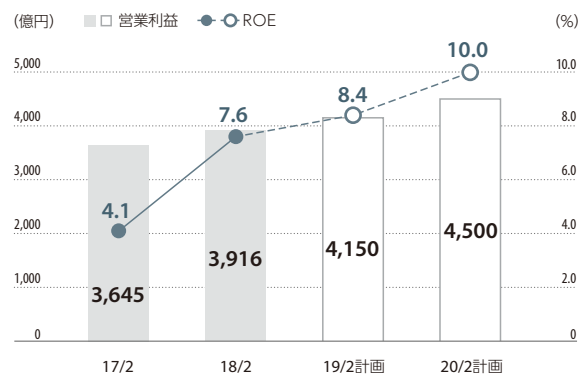
2008年に(株)セブン&アイ・ホールディングス入社。  
2017年5月に執行役員財務企画部シニアオフィサー、  
2018年3月より、執行役員財務経理本部長に就任。

## ■ 企業価値向上に向けて

セブン&アイグループは、中期経営計画において、2019年度営業利益4,500億円とROE10%の達成という目標を掲げています。

これは、当社グループが中長期的に企業価値を向上させていくため、持続可能性と成長性の両面で取り組みを強化していくという意思を表したものです。

そのためには、健全な財務体質を維持・強化し、成長に向けた積極的な投資を継続できるよう経営資源を確保する一方、投資にあたっては、中長期的な見地から、その効率性を十分に吟味し、さらに財務基盤の強化につなげていくという正の循環を生むことが重要だと考えております。



グループシナジーを追求しながら、  
2020年2月期の計画達成に向けて加速

## ■ 健全な財務体質の維持・強化

健全な財務体質の維持・強化を図るには、まず、事業の資本生産性を高め、収益力を向上させることが重要です。

そのため、経営陣から現場まで、経営の方向性を共有できるようなKPI(Key Performance Indicator: 経営管

理指標)を設定し、全社を挙げて効果的な取り組みを推進できるように体制の強化を図っております。

財務経理本部においては、事業計画とその進捗が財務の健全性および効率性に及ぼす影響を、自己資本比率や

D/Eレシオ(負債資本倍率)および投下資本利益率やROE等により測定し、より適正な経営判断を行うための指標として、適時に経営陣へ報告しています。

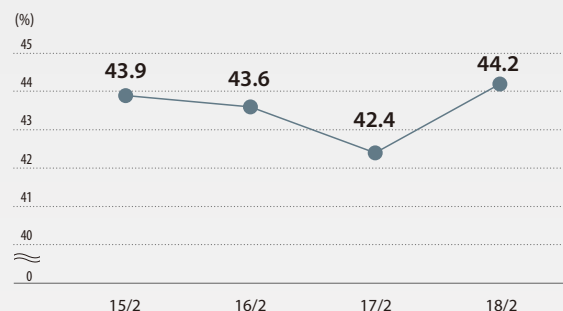
また、北米でのコンビニエンス事業等の発展に伴い、当社グループの連結純資産に占める外貨建の割合が高まっており、通貨別の資産・負債管理を強化するとともに、子会社の財務ガバナンスの高度化についても取り組んでまいります。

## ■ 成長に向けた経営資源の確保

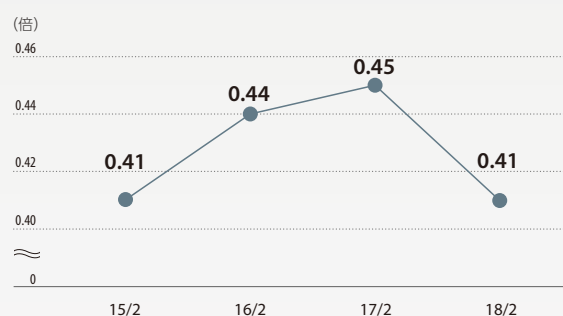
当社グループを取り巻く環境は、ネットやAI等の進展に伴い、競合環境を含めて激変しており、これらへの対応を含め、成長を促進するための投資規模は、勢い大きくなるものと想定しております。

したがって、調達余力の拡大と調達手法の多様化は、当社グループの大きな課題であり、財務の健全性を脱みながら、事業ポートフォリオの見直しや財務資本戦略の策定を含め、経営資源の拡大と適正な配分に、より一層注力してまいります。

### 自己資本比率



### D/Eレシオ



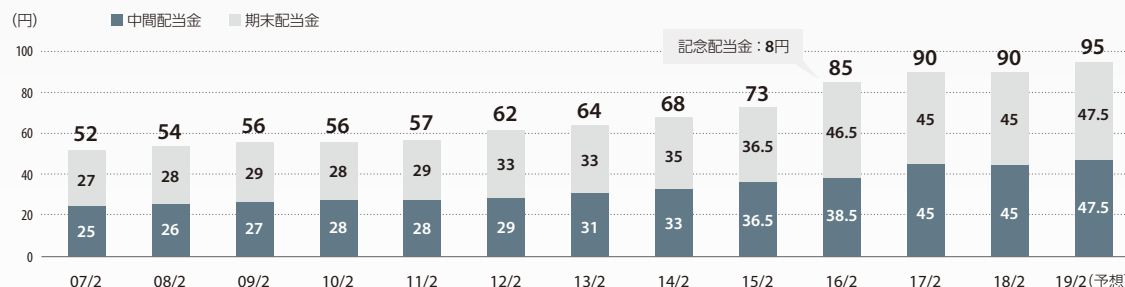
## ■ 株主還元の方針

株主の皆様への利益還元につきましては、「利益向上に見合う株主還元を行うこと」を基本方針として、1株当たり配当金について目標連結配当性向40%を維持しつつ、さらなる向上を目指してまいります。

なお、2019年2月期の1株当たりの通期配当は、前期から5円増配した95円を予定しており、配当性向は40%を見込んでおります。

### 1株当たり配当金の推移

目標連結配当性向：40%の維持向上



| 配当性向(%) | 36.4 | 39.4 | 55.7 | 112.7 | 45.2 | 42.2 | 41.0 | 34.2 | 37.3 | 46.7 | 82.3 | 43.9 | 40.0 |
|---------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|---------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|

2019年2月期は、5円増配の95円(配当性向40.0%)を予定